

事項三 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件

一一七 一月六日 在仏国石井大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

仏全国ニ蔓延ノ日本歐洲出兵論ニ関シ報告ノ件

別電 同日石井大使発加藤外務大臣宛第四号

「ジュルナル、デ、デバー」社説

第三号

日本出兵論其後全国ニ蔓延ス出兵報酬トシテ大ナル土地(例ヘハ印度支那)ノ割譲ヲモ覚悟スヘシト云フモノアリ英仏露ハ何レモ毎月十億法ヲ費スカ故日本招兵ノ為三ヶ月早ク戦争ノ目的ヲ達シ得タリトセハ九十億ヲ益スル外千萬ノ壮丁ヲ三月早ク本業ニ服セシムルノ利アルヲ以テ日本國ニ対スル財政上ノ報酬ハ是等ヲ基礎トスヘシト論スルモノアリ其他当館ニ無名ノ投書スルモノアリ詩文ヲ送り日本ヲ謳歌スルモノアリ此際「ジュルナル、デ、デバー」ハ異彩アル別電社説ヲ發表ス

(露都經由、一月六日后六、五四、第一三三号)

之ヲ払フ者ハ仏國ニ非ス仏國ハ既ニ他ニ莫大ナル犠牲ヲ払ヒ将来モ払フ必要アリ

(露都經由大正四年一月六日后一一、一三発第一三三号)

一一八 一月七日 在仏国石井大使ヨリ
加藤外務大臣宛

「日本軍ハ歐洲ニ来ラズ」ト題スル「フランクフルター」紙記事訳報ノ件

公第九号 (二月十五日接受)

大正四年一月七日

在仏国

特命全權大使 石井菊次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

(一月四日発行「フランクフルター」紙記事)

「ウォルフ」通信局非公報、一月三日「ストッ

クホルム」発電

当地諸新聞紙ハ東京通信ヲ發表セルガ右ハ確ナル筋ヨリ出タルモノニシテ日本カ歐洲ニ軍隊ヲ派遣スルノ意図アルコト並ニ日本將校カ現ニ露國砲兵隊ニ服務シ居レリトスル風

三 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 一一八 一一九

(別電)

一月六日在仏国石井大使発加藤外務大臣宛電報

日本歐洲出兵論ニ関スル「デバー」社説ノ要領

第四号

「デバー」社説要領

日本援兵ニ利ト不利トアリ而モ利ハ不利ヨリ大ナルヲ以テ吾人ハ主義トシテ之ニ反対セサルモ国民カ日本援兵ニ熱中シテ自己ノ決心ヲ弱メ依頼心ヲ起ス傾向アルハ遺憾ナリ第一、五十萬ノ日兵力幾何ノ戦期ヲ短縮スルヤ疑問ナリ第二、我ヨリ犠牲ヲ呈セサルモ早晩吾人ニ参加シテ独塊ニ向フヘキモノ歐洲ニ二ヶ国アリテ其参加ハ日兵到着迄ニハ実現スヘシ縦シ参加カ遅延スルモ壞洪國ハ其内ニ戦闘不能状態ニ落ツヘシ斯ル局面ノ下ニ條件如何ヲ問ハス外国援助ヲ絶叫スルハ何タル醜態ソヤ一大領土ヲ割キ日兵来援ヲ請フカ如キハ大反対ナリ萬一斯ル犠牲ヲ払フ必要アル場合ニハ

説ノ無根ナルヲ宣明セルモノナリ日本將校ハ觀戰武官トシテ露國軍隊ニ在リ又日本カ此次戦争ニ参加シタルハ英國ニ対スル同盟條約規定ノ義務ヲ履行センカ為ニ外ナラスシテ其目的ハ極東ニ於ケル利益ノ擁護ニ協力スルニ在リ、日本軍ハ対償ヲ得テ歐洲ニ貸出サルヘキモノニアラス膠州灣ハ目今已ニ日本ノ掌裡ニ歸セリ太平洋並ニ印度洋ニ於ケル独逸軍艦ハ已ニ或ハ亡滅シ或ハ武装ヲ解除シタリ、日本ノ此次戦争ニ於ケル役分ハ實際上完了シタルナリ、日本ハ徐ニ忍耐シテ全戦役ノ終了ヲ俟ツアルノミ

右御參考マテ訳報申進候 敬具

一一九 一月十一日 在仏国石井大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本ノ歐洲出兵ニ対スル危惧ニ関スル瑞西及和

蘭新聞評論報告ノ件

第六号

Journal de Genève ニ見エタル論説トシテ当地新聞紙ニ転載セル要領

歐洲ノ戦争ニ他人種ヲ招来スルハ歐洲ノ自殺ヲ意味ス独逸

カ土耳古ヲ引込ミタルハ其一例ナレトモ幸土耳其ハ半死病人ナレハ禍害ナキモ日本ハ然カラス日本ハ既ニ僅少ノ犠牲ヲ以テ青島ヲ略取セリ朝鮮ニ始マリ山東ニ及ヒ支那全国ヲ併呑又ハ保護トナスモ 歐洲如何トモ為ス能ハス 印度支那モ亦免カレサルヘシ今日日本援兵ヲ唱フルモノハ他日耶蘇教国カ受クヘキ日本ノ圧迫ニ対スル責任者タリ日本援兵カ「スエズ」「コンスタンチノープル」ニ戦フ間ハ兎モ角一度足ヲ独逸ニ入ルレハ歐洲人心效ニ激変ヲ来スヘシ云々
又和蘭新聞ヨリ当地新聞ニ転載スル所ニ抛レハ日本カ「マーシャル」占領ノ結果「ジャワ」ハ我カ物ニ非ストシ日本出兵ノ結果ハ其威力世界ヲ圧シ印度洋太平洋ニ於ケル権衡失ハルヘシ云々

(露都經由大正四年一月十二日 一〇一發第三〇号)

一一〇 一月十一日 在仏国石井大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本ノ歐洲出兵ニ対スル反对論拾頭ノ兆ニ付報
告ノ件

第七号

往電第六号和蘭ニ関シテハ豫テ独逸国虜負ノ Krypter 一

云ヘハ日本全国ノ軍隊ヲ動員シテ之ヲ歐洲ニ送ルト云フガ如キハ日本自身ノ利益ガ危機ニ在ル如キ場合ニ非サル限り即チ全然他国ノ利益ノ為ニハ到底為シ得サル所ナリ第一費用ノ点其他具体的ニ細目ヲ議スルコト、ナラハ種々ノ困難続出スヘシ報酬トシテ南アフリカノ独逸領ヲ日本ニ取ラシムルトカ仏領印度支那ヲ日本ニ譲ルトカ云フコトモ聞ケドモ日本ハ其様ナル所ヲ貰ヒテ割ニ合フモノニ非スセメテ蘭領印度諸島トカ云フコトナラハ兎ニ角ナレド是等ハ事實聯合諸国ノ処分シ得ル所ニ非ズト述ヘラレタルニ大使ハ無論愈出兵ト云フコトトナラハ種々細目ニ付テ協議ヲ経サルベカラズト思考シタレトモ根本的ニ出兵ヲ肯セストノ御話ナリシ故夫等ノ点ニ言及セザリシナリ日本政府ノ御意見ニ変化アリタルナラントハ思ハザリシモ話ノ序ニ為念伺ヒタル次第ナリト述ベタリ

一一二 一月二十二日 在伊国林大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

歐洲ニ日本艦隊派遣問題ニ関シ伊国皇帝ヨリ質問アリタルニ付内情問合ノ件

派ノ論ニシテ Journal de Genève ノ論説モ同シク独逸側ノ作戦ニ出テタルモノト察セラル之等論説ハ仏国公衆ニ大ナル感触ヲ与ヘタル如ク往電第四号 Débats ニ次テ日本出兵反对論者漸ク声ヲ挙ケタリ印度支那ノ犠牲ナル語ハ見事ニ仏国人ノ自負心ニ徹ヘタルカ如シ Pichon 氏一派暫ク沈黙ヲ守リツツアリ

(露都經由大正四年一月十二日 二時發第三一号)

一一一 一月十三日 加藤外務大臣
在本邦英国大使 会谈

歐洲ヘノ派兵ニ付テノ日本ノ態度在本邦英国大使打診ノ件

一月十三日英国大使来省会谈ノ要領

大正四年一月十三日英国大使来省ノ際日英仏露同盟ニ関スル談話ニ引続キ同大使ヨリ近頃大分歐洲出兵論ナルモノ唱ヘラレ居ル様ナルガ日本政府ノ御意見ハ最初御話ノ通断然出兵ノ御考ハナキコト、思考スル処果シテ然ルヤト尋ネタルニ付大臣ハ然リ所謂歐洲出兵論ナルモノノ真ノ動機ハ能ク分ラザルガ帝國政府ノ意見ニハ勿論何等變更ナシ有体ニ

第一五号

過般伊国皇帝陛下ニ謁見ノ際種々御質問アリタルカ本使ニ於テ少シク意外ニ感シタルハ日本国ヨリ歐洲ニ艦隊派遣ノ件ニアリ本使ハ全然承知セサルノミナラス事実トハ思ハサル旨言上セルモ或ハ何レカノ方面ニ於テ内議ニ上リタル次第ニモ有之ヤト後ヨリ推測セラルル筋モアリ旁為念内示請フ

一一三 一月二十三日 在英國井上大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

英國ハ目下日本ノ歐洲出兵ヲ要請スル意図ナキ旨ノ英國外務大臣ノ談話報告ノ件

第二七号 極秘

往電第二六号会谈ノ際「グレー」氏ハ戦局ノ現状ニ言及シ大要左ノ如ク内話アリ

仏白境上ニ於ケル戦局ハ目下聯合軍頗ル有利ナリ只差当リ双方トモ暫壕内ニ立テ籠リ互ニ対峙ノ勢ヲ持シ何レノ一方ヨリモ攻勢ニ出テ得サル有様ナルモ独逸国軍隊ハ曩ニ Ypres 方面ニ猛烈逆襲ヲ試ミタルモ空シク數萬ノ損害ヲ

被リタルノミニテ全ク失敗シ實際再ヒ有効ノ攻勢動作ヲ執リ得サル実況ニアルモノノ如シ然ルニ「キチナー」卿ノ言ニ依レハ四月ニ至ラハ英國ヨリ優勢ナル新軍増派ノ運ヒニ至ルヘク然ル上ハ聯合軍ハ愈々攻勢ニ転スルコトナルベシトノコトナリ右ノ次第二ニテ戦局先ツ我ニ有望ナル処僞國ニ於テハ右ニ拘ハラス「ピジョン」氏及「デルカッセ」氏等切ニ日本軍招請ニ熱心シ居ルカ本件ニ付テハ実ハ自分ニ於テ先頃加藤男トノ間ニ非公式ニ意見交換ヲ試ミタルコトアリ當時加藤男ヨリハ日本政府ニ於テハ或種ノ理由ニ依リ到底出兵ノ需ニ応シ難キ旨回答ニ接シタリ右回答ハ非公式トハ言ヒナカラ日本政府ノ意嚮ハ右ニテ明白ニシテ且爾来右日本国政府ノ態度ハ何等変更シタリト見ルヘキ理由ナク此際自分ニ於テハ再ヒ本件ニ付日本国ニ交渉ヲ試ムヘキ理由ナク又爾カスルノ地位ニアラスト思考スル次第ナリ

「グレー」氏談話ノ儘右御参考迄申進ス

拘ハラス増師案ノ不成立立僞國ニ於ケル意嚮ノ不確定并ニ財政上ノ困難ノタメ一時行惱ミトナリタルモ今ヤ民間団体ノ主張ニヨリ義勇軍派遣ノ計画進捗シ当局ノ有力ナル援助アルニ依リ即チ半官的ノ形式ニ於テ実現セラレントスルモノトナン日本ハ此ノ拳ニヨリ東西兩人種間親和ノ有力ナル連鎖ヲ作ルモノニテ敵國ニ対スル打撃タル丈歐洲諸國ノ利益ル所夥シキヲ主張セリ

(露都經由一月廿七日後一〇、五〇第七五号)

一二六 三月三日 加藤外務大臣
在本邦白国大使 会谈

加藤外務大臣ヨリ日本ノ歐洲出兵不可能ナル理由説明ノ件

三月三日白国公使来省会谈ノ要領

大臣四年三月三日白耳義國公使来省歐洲出兵問題ニ関シ会谈ノ要領左ノ如シ

公使、本日参上シタルハ別儀ニ非ス由来日本ノ歐洲出兵論ハ世上既ニ之ヲ唱フル者アリ政府トシテモ仏露兩國ニハ其議アリタルモ英國政府ノ意向兎角進マサル為具体的ノ問題トナラサリシ様ニ承知シ居ル処此際日本ヨリ歐洲ニ出兵

三 日本軍歐洲派遣ニ関スル交渉一件 一二六

一二四 一月二十三日 加藤外務大臣ヨリ
在伊国林大使宛(電報)

我艦隊歐洲派遣ニ関シ英國政府ヨリ極内密ニ申出アリ我方応諾セサリシコトアル旨回報ノ件

第一〇号 極秘

貴電第一五号ニ関シ客年中英國政府ヨリ帝國艦隊歐洲派遣方極内密ニ申出テタルコトアルモ帝國政府ニ於テハ諸般ノ理由ニ基キ右希望ニ応シ得サル旨回答シタル次第ニシテ表面上ハ未タ曾テ此ノ種ノ交渉ハ正式ニハ之レナキ様相成居リ其後何レヨリモ何等申出ナン右貴官極内密ノ御含マテ電報ス

一二五 一月二十六日 在モスコー平田総領事代理
加藤外務大臣宛(電報)

日本ノ歐洲出兵問題ニ関シ「モスコー」新聞紙
歓迎ノ意向表明ノ件

第三号

日本ノ歐洲出兵問題ニ関シ Ruskoje Slovo 一月二十六日ノ紙上ニ於テ好望ヲ以テ之ヲ迎ヘ日本当局ノ同情的態度ニ

セラル、コト、ナラハ一面歐洲ニ於ケル戦況ヲ一変シ平和克復ノ時期ヲ早ムルニ利アルヘク他面日本ノ声誉ハ益々揚カリ全局ニ取り必ス好都合ナルヘシト思考ス幸ニ貴見拝聴スルコトヲ得ヘキカ

大臣、歐洲戦局ノ可成速ニ終結ニ至ランコトハ素ヨリ本大臣ニ於テモ閣下ト希望ヲ一ニスル所ニシテ日本カ聯合諸國ト共ニ起テ共同ノ敵ニ当リ居ル以上事情ノ許ス限り聯合諸國ニ対シ有形無形ノ援助ヲ与フルコトハ帝國政府ノ常ニ期図シテ辞セサル所ナリ而モ歐洲出兵ノコトニ至リテハ未タ何レノ政府ヨリモ何等照会ニ接シタルコトナシト雖民間一部ニハ既ニ其論アリ帝國政府ニ於テハ夙ニ之カ講究ニ従事シ居リ仮ニ歐洲ノ戦況日本ノ出兵ヲ促ス場合ニ之ヲ実行スルノ可否如何ニ付テハ仮定的問題トシテニハ相違ナキモ帝國政府ノ意思ハ既ニ決定シ居レリ即チ右帝國政府ノ意思トハ一言之ヲ蔽ヘハ日本ノ歐洲出兵ハ之ヲ実行シ得サルコト是ナリ而シテ其理由ニアリ一ハ理論上ノ理由ニシテ他ハ實際上ノ理由ナリ所謂理論上ノ理由ハ其基礎帝國軍備ノ根本目的ニ在リ抑帝國軍備ノ目的ハ帝國現実ノ疆土及利益ヲ自衛防護スルニ在リテ其外ニ出テス故ニ帝國ノ安危ニ直接何等影響ナキ方面ニ於テ之ヲ用フルコトハ其存立ノ根

本主義ニ反ス即チ前述ノ目的ヲ以テ傭兵制度ナラハ兎ニ角トスルモ現ニ徵兵制度ニ依リ編制シタル軍隊ヲ右ト相反セル目的ノ為ニ遠隔ノ地ニ派遣スルガ如キハ到底帝國政府ノ敢テシ能ハサル所ナリ次ニ實際上ノ理由トハ之カ実行ノ至難ニ在リ今上述理論上ノ理由ヲ顧ミズ歐洲出兵ヲ実行スルモノト仮定スルモ先ツ之カ輸送ノ方法ヲ考ヘサルベカラス蓋シ該出兵ヲシテ苟モ其効アラシメントセハ少クトモ數十萬ノ兵ヲ動カサザルベカラズ而シテ之ガ為ニハ二百萬乃至三百萬噸ノ運送船ヲ要スヘシカカル多数ノ船舶ヲ日本ノミニ於テ得ルコトハ素ヨリ不能ニシテ外國筋ヨリノ傭船ヲ合スルモ之ヲ得ルコト殆ト望ミナシ仮ニ此点ハ可ナリトスルモ日本ニ於テコソ日本兵ノ給養ハ比較的費用ヲ要セスト称セラルルモ歐洲ニ到リテ尚然ルコトヲ得ルヤ否ヤ疑ハシク傭兵制度ノ下ニ於テハ或ハ是等出兵ノ費用ヲ外國ノ支給ニ待ツコトヲモ得ヘキカナレト斯クノ如キハ徵兵制度ヲ有セル我帝國ニ於テ殊ニ其体面上ヨリ云フモ到底之ヲ実行スルコト能ハサルナリ從テ仮ニ右費用ハ之ヲ外債等ニ待タサルベカラズトシテ如何ニシテ之カ償還ノ途ヲ講セントスルカ尙仮ニ是等經費ハ何等カノ方法ヲ以テ支辨シ得テ歐洲ニ於ケル我軍ノ行動充分ノ功ヲ奏スルトスルモ日本ハ果シ

一二七 三月二十四日 在仏国石井大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本出兵問題ニ関スル仏英間交渉不調ノ件

第五四号

数日前 Pichon 氏来訪内話ノ要領

日本出兵問題ニ関シ外務大臣ヨリ一件書類ヲ内示セラレ一読セルニ日英兩國間一応ノ意見交換アリタルノミニテ更ニ交渉ノ余地アルモノト認メラレタルニ付何故ニ英國政府ニ迫リテ交渉ヲ再開セシメサルヤヲ質問シタルニ Delcasse 氏モ同意見ニテ英國政府ヲ促シタルモ英國政府ハ交渉ノ余地ナシトテ断ハリタリト云フ英國政府ハ濠洲加奈陀ノ意向ヲ憚カリテ斯ル態度ニ出テタルモノナルベキハ Delcasse 氏モ自分モ同感ナリ茲ニ至リテ Clemenceau 氏モ自分モ余儀ナク本問題ヲ論セサルニ決シタリ

(露都經由三月二十五日午後三、一二第三三四号)

テ之ニ依リテ何物ヲカ得ヘキ戦後多少ノ報償ヲ受クルコトトナルトモ日本ニ取り決シテ引合フモノニ非ザルベシ以上ハ前述仮定的問題ニ対スル帝國政府ノ決定的意向ナルカ独リ政府ニ於テ右ノ決意ヲナセルノミナラス歐洲出兵ノ挙ハ一般國民有識者間ノ贊同ヲ得ルコト全然望ナン帝國ノ軍隊ハ我

天皇陛下ノ勅命サヘ下ラハ素ヨリ欣テ如何ナル方面ニ如何ナル行動ヲモ辞スルモノニハ非ザレトモ國民一般ノ後援ヲ得サルニ於テハ果シテ幾何ノ実績ヲ揚ケ得ヘキヤ甚タ疑シト云ハサルベカラス現ニ一部論者中ニ歐洲出兵論ヲナス者アルモ勿論國內一般ノ贊成ヲ得ルニ致ラス其他義勇兵募集ノ挙ヲ為ス者二三有之ト雖何レモ真摯事ニ当ル者ナク各々皆為ニスル所アルノ徒ナルノミナラス仮ニ彼等ノ企圖ニシテ表面幾分ノ形体ヲ具フルニ至ルトモ節制規律ニ乏シキ烏合ノ衆ニシテ出テテ帝國ノ威敵ヲ傷クルトモ之ヲ進ムルノ望ナキ輩ナリ之ヲ以テ政府ハ現ニ当該官憲ヲシテ之ガ解散ヲ命シタリ以上ハ折角ノ御尋ニ付極メテ内密ノ御含迄ニ帝國政府ノ所見ヲ開陳シタル次第ナリ

公使、詳細ナル御内話ヲ謝ス委細敬承セリ

一二八 八月十三日 大隈兼任外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛

英國皇帝陛下ヨリ開戦一周年ニ際シ我陛下宛必勝ノ信念及戦争遂行ノ決意ヲ披瀝セル御親電及我陛下御答電ノ写送付ノ件

附屬書一 八月四日英國皇帝陛下發天皇陛下宛御親電

電写

二 八月六日天皇陛下發英國皇帝陛下宛御答

電写

公信人送第七二号

開戦一周年ニ際シ英國皇帝陛下ヨリ我 天皇陛下へ親電ヲ寄セラレタルニ付之ニ対シ我 陛下ヨリ御返電發送被為在候趣ハ不取敢往電第二〇〇号ヲ以テ及電報置候処右往復電文各写茲ニ及御送付候條委細右ニテ御了悉相成度此段申進候也

(附屬書一)

八月四日英國皇帝陛下發天皇陛下宛御親電写

His Majesty Emperor of Japan Tokio.

On the anniversary of the day on which my country was forced to take up arms against the power that preferred war to conference and most

flagrantly violated its treaty obligations I would wish to express to you my firm conviction that our united efforts will lead to a successful issue and to assure you of my unfailing cooperation and of the determination of myself and of my country in association with your gallant forces to prosecute the war till it can be concluded on satisfactory terms and peace can be made secure.

George R. I.

London, 4/8/1915. 10 a.m.
Received 5/8 " 5 a.m.

(附屬書11)

八月六日天皇陛下發英國皇帝陛下宛御答電亨

I thank you cordially for the most encouraging message which you sent me on the anniversary of the memorable day of your reign. To me it is a source of profound admiration to see the unflinching devotion with which your loyal and valiant subjects are fighting for their country and her allies. I have no doubt that our just cause will prevail and that by our combined efforts and

determination a lasting peace will be secured to the allied Powers.

一一九 八月十五日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
大隈兼任外務大臣宛(電報)

獨逸ノ陰謀ニ対処スル為蘭領東印度方面ノ警戒
ヲ英國支那艦隊司令官ヨリ財部第三艦隊司令官
ニ依頼ノ件

第七七号

財部司令官八月六日来著同日英國支那艦隊司令官 Jerram 中将ヨリ極秘トシテ左記ノ件内閣セラレタル趣昨十三日本官限リノ含迄ニ同司令官ヨリ内話アリタリ

各地ヨリノ諜報ヲ綜合スルニ獨逸人ハ先頃来大規模ニ英領各地ノ騷擾ヲ企画シ上海盤谷及「バタヴィア」ニ在ル獨逸國總領事並ニ米國駐劄獨逸國大使ハ反英思想ヲ懷ケル教育アル各地ノ印度人ト氣脈ヲ通シ既ニ武器彈藥ノ密送ヲ開始シ目下盛ニ活動、期スル所其ノ目的地ハ第一緬甸第二「クロンダイル」及「カルカッタ」ニ亘ル中央印度第三波斯ニシテ在盤谷獨逸總領事ハ主トシテ緬甸方面在「バタ

艦明石ト共ニ該方面ヲ警戒セシメツツアリ本件ハ既ニ財部司令官ヨリ軍令部ニ詳細電報セラレタル由御参考迄

一一〇 八月二十一日 在新嘉坡藤井領事ヨリ
大隈兼任外務大臣宛

我第三艦隊ノ諸艦ノ葡領「チモール」島行ニ関
スル件

機密公信第二〇号 (九月十六日接受)

大正四年八月二十一日

在新嘉坡

領事 藤 井 実(印)

外務大臣伯爵 大隈重信殿

財部第三艦隊司令官ハ旗艦對島ヲ率キテ今朝当地出港葡。葡。牙領「チモール」島 Timor ニ向ヒタルカ目下北「ボルネオ」、「サンダカン」Sandakan 附近ニアル軍艦明石並蘭領東印度方面巡邏中ノ軍艦秋津洲モ亦近々同島ニ向フ豫定ナリト云フ 財部司令官ノ内話ニヨレハ右第三艦隊諸艦ノ「チモール」島行ハ全然当地英國支那艦隊司令長官「ジェラム」中將 Sir Martyn Jerram ノ慈愼ニ因ルモノニシ

テ英長官カ右ノ慈愍ヲナスニツキテハ同長官ヨリ豫メ英本
國政府ニ対シ英艦ノ同島入港ニ関シ許可ヲ得タル上更ニ帝
國軍艦モ同シク差支ナキカラ電報ニテ請訓シタル結果差支
ナキ旨返電ニ接シタル次第ナル由ナリ
右御参考迄ニ御報告申進候 敬具

一三一 十月二十一日 在羅府大山領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日本ノ歐洲出兵ハ米國ノ存立ヲ危ウストノ羅府

「エキザミナー」紙ノ社説報告ノ件

第五号

本日当地「エキザミナー」ハ日本ノ歐洲出兵ハ米國ニ対ス

ル致命傷ナリト題シ全紙ニ亘リ概要左ノ社説ヲ掲載セリ
日本ハ米國ノ避クヘカラサル敵國ニシテ日本ノ歐洲出兵ハ
米國ノ存立ヲ危ウス管ニ米國ノミナラス英國殖民地其他白
人種全体ノ存立ヲ危ウス何トナレハ該出兵ハ亜細亞人ヲシ
テ白人ヲ殺戮セシメ白人ノ戦鬪力ヲ殺キ結局白人ハ亜細亞
人ノ為ニ撃滅セラルルニ至レハナリ今ニシテ白人種等協力
之ヲ阻止セスンハ現代白人種ハ羅馬帝國没落ノ轍ヲ履ムヤ
必セリ日本ノ野心ハ朝鮮支那ノ併呑ノミナラス世界ノ白
人種ヲ尽滅シ世界ヲ統一セントシテ今ヤ堅忍自重シツツア
リ云々

事項四 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件

- 一 中国トノ交渉
- 二 列國トノ交渉

一 中国トノ交渉

一三二 一月八日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛(電報)

中国ト交渉開始方訓令ノ件

附記一 一月四日小幡書記官持参ノ日置公使意見書

二 一月十五日小池政務局長ヨリ小幡書記官ニ
手交ノ回答書

第四号

(註1)

往電第六一八号ニ関シ貴官ハ最早何時ニテモ袁總統ニ会见
シ交渉ヲ開始セラレ差支ナシ会见ノ日取り定リ次第電報ア
レ滿蒙竝山東地方ニ於ケル開放地及滿蒙ニ於ケル諸鉱山
ノ採掘權ニ関シテハ差当リ主義上ノ取極丈ニ止メ置キ追テ
其地点ヲ確定スルコトト致度ニ付右様取計ハレ度シ尚今般
小幡書記官ニ托サレタル貴官御意見ノ各項ニ付テハ当方ニ
於テモ更ニ篤ト考慮ヲ加ヘタルモ此際御注意ニヨリ特ニ修

四 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件 (一) 一三二

(附記一)

对中国提案ニ関スル日置公使意見書

(大正四年一月四日小幡書記官持参)

(第一号)

第一條 濟南道口鎮鐵道及高密徐州鐵道ハ共ニ山東省以外
ニ亘ル処右ハ何レモ 山東省ヲ起点トスルモノナ
ルヲ以テ「山東省ニ関シ」ニ包括セシムル趣旨ト
解スル処今一層明確ニ規定スルコトヲ要セサル
ヤ